

高齢者は、けがや病気で入院した時、治療が終わって退院したからといって、すぐに通りに暮らせるとは限りません。体にマヒが残ったり、歩力が落ちていたりするから、自宅に帰る前に、「介護老人保健施設」（老健）を利用して、体調を整えることができます。

入所施設ですが、在宅生活が難しくなった人が暮らす特養老人ホーム（特養）と異なり、主に在宅生活に戻すことを目指す人が、リハビリや医療的ケア、食事やトイレなどの介助を受けて過さず、退院後だけではなく、入院するほどではないが、力が落ちて在宅生活の継続

リハビリなど行い在宅生活支援

介護老人保健施設



「不安がある」といった場合も利用できます。要介護1以上の人が対象です。

老健には、介護職員やリハビリの専門職のほかに、医師や看護師、薬剤師などの医療職が手厚く配置されています。このため、糖尿病治療のためのインスリン注射や、食事をとるのが難しい場合の経口栄養剤など、医療的なケアが必ず必要人も、一定程度、受け入れてもらえます。

東京都町田市の老健「オネステイ南町田」の事務長、阿部正博さんは「様々な職種が協力し、利用者をサポートするのが特徴です」と言います。オネステイ南町田では、リハビリに特に力を入れてお

◆介護老人保健施設の基本料金(月額)の目安

	基本型	在宅強化型
要介護1	2万3790円	2万6130円
要介護2	2万5290円	2万8410円
要介護3	2万7240円	3万 420円
要介護4	2万8830円	3万2160円
要介護5	3万 360円	3万3750円

※1か月が30日で、自己負担が1割の人が相部屋を利用した場合。地域によって異なる

り、3種類の専門職がいます。立ったり、歩いたりなど運動のリハビリを指導する理学療法士、日常生活に必要な動作の訓練を担当する作業療法士、話したり、食べたりといった機能の回復を支える言語聴覚士です。

自宅から日帰りでもリハビリを受けられる「デイケア」や、短期的に入所する「ショートステイ」を併設しており、自宅に戻った後の暮らしも支えています。今夏は、一人暮らしの高齢者が、猛暑をしのぎ、体調を維持するために短期間利用したケースがあったとい

◆介護老人保健施設の基本料金(月額)の目安

阿部さんは「在宅生活を幅広く支えることのできる施設だと知ってほしい。デイケアやショートステイを利用していただければ、施設の雰囲気も体験できます」と話します。

老健は、退所者のうち自宅に戻った人の割合や、リハビリの充実度などに応じて5類型に分かれます。「基本型」に対し、在宅復帰や生活を支える役割が特に大きいと認められると「在宅強化型」「超強化型」などと呼ばれます。

利用料金は、こうした類型や相部屋か個室か、利用者の要介護度などによって異なります。

自己負担1割で要介護2の人が、基本型の相部屋を利用した場合、1か月(30日)で2万5290円、在宅強化型の相部屋なら2万8410円です。料金は、基本型よりも強化型の方が高いです。

利用料金のほかに、食費や光熱水費などを支払う必要があります。個室の場合は室料もあります。

入所できる期間は決まっておらず、施設職員が、原則3か月ごとに回復の状態を確認し、利用の継続について判断します。最近では、特養に空きがなくて入居を待つ利用者が増え、入所期間は長期化しています。

(小沼聖実)



※過去記事はヨミドクターで

※第1、2火曜日に掲載します。次回は10月1日の予定です。